優秀さのお墨付きを得
ヘリカルの研究者は胸を

阪大レーザー核融合研
ターの中井貞雄センター
ヘリカルもトカマクも、
核融合研究機構の報告書
閉じ込め陣営同士でもラ
意識は同じ。原研が一歩
まだまでのデータの優位を誇
ヘリカル側は「京大の現
置は百億円程度、二千数

**閉じ込め方式** 磁気閉じ込
は、巨大な鋼鉄容器内で、
塩のプラズマを磁気の力で
空中に浮かす。トカマクで
閉じ込められたプラズマが

学説で著名な米コロンビ
教授のゴードン・ヒュ
主も参加する。
「起源」と共にシンポ
の柱になっているのは熱
護。人以外の類人猿の

ドーナツ形で、ヘリカルはねじれたドーナツ形。慣性閉じ込めは強力なレーザー光を当てて球形のプラズマを一気に圧縮する。

大多数が生活している熱帯林が伐採されると、ほかに移ることもできないテナガザルなどはたちまち絶滅に向かう。きめ細かな保護が要求され、そうした保護の実態や対策も討議される。

百億円もかけたトカマクと単純に比べることはできない。同じ規模の装置を作れば負けない」。

各研究所ともカラーのパンフレットや映画を作るなどして自分の方式をPRする。研究が進むにつれて、建設費や発電コスト面からの評価に比重が移り始めた。

原研の狐崎昌雄・核融合計画室長はいう。「一般の人は、科学の問題だからよく話しあえば理解しあえると思うかもしれない。しかし、前人未到のことをやるのだから、どの道が近いのか、本当のことはだれも分からない。自分の方式がいいと信じているし、だからこそ研究が続けられるんです」

口病院、関西労災病院などの総合病院に行くように通知される。開業医は年間に合計三千五百人から三千人のレントゲン写真を撮っているが、異常が見つかったのは、昭和六十一年度二百四十三人、六十二年度百七十三人、六十三年度百三十二人。このうち三分の一ほどが読影会で発見されているという。

参加する開業医は専門医と一緒に話し合いながら、写真を見るため、「像の解釈の仕方がよく分かる」「写真を平面ではなく、立体的に診断出来るようになった」などと、読影力の向上を喜んでいる。しかも四年目を迎え、開業医が患者の前年や前々年の写真をいっしょに持ち込んで比較読影をしており、早期発見に威力を発揮するようになった。

## クチャクチャかんで口腔がんが増えた？

台湾のビンロウの実

台湾でガムがわりに、ヤシ科のビンロウの実をかむ愛好者が増えてきて、口の中にできる口腔（こうくう）がんが増加していることを、李宏生・台北医学院教授が大阪市内で開かれた第十三回日本頭頸（けい）部腫瘍（しゅよう）学会で発表した。

問題の口腔がんは一九六〇年代までは頭頸部のがんのうち四位だったのが、七〇年に入って二位に上昇。昔からビンロウの実をかむ習慣が台湾にはあるが、愛好者はさらに酒と尿などを加えてかんでいる。こうした習慣を長く続けていると、実のどん成分が原因かはわからないが、口の粘膜のただれなどを招いて、口腔がんを多発させていると説明している。

くしてやるのが第三のこつ。

紙の博物館が夏の日曜ごとに開いている手すきはがき作り講習会が、今年もこの二日から始まった。牛乳パックのほか、事務用紙などが原料だ。紙を理解するにはもってこいだが、牛乳パックは紙の年間生産量二千六百万トンの〇・六％程度。資源愛護という面からは、ささやかな貢献に過ぎないが。

（紙の博物館主事学芸員　小宮　英俊）



**●「生命工学の新展開」セミナー**　15日午後1時半―16日午後3時まで、神戸市の関西地区大学セミナーハウス。岡山博人・阪大微生物病研究所教授の「遺伝生物遺伝子のクローニングと構造機能の解析」、御子柴克彦・阪大蛋白質研究所教授の「脳の形態形成と行動の遺伝子解析」、渡辺武・九大生体防御医学研究所教授の「モノクローナル抗体の生産」など五人の研究者が講演する。

一般、学生計六十人が定員で、料金は一泊二日で学生六千七百円、一般八千八百円。同セミナーハウスか各大学学生部に備え付けの書類で郵便番号651・15、神戸市北区道場町生野の同ハウス（電話〇七九五―六四一―四三九一）に申し込む。締め切りは8日。

**●「くらしのアルゴリズム―情報処理の周辺」**　大阪経済大経営学部助教授の西山豊著。アルゴリズムとは情報処理の具体的な方法や論理などを意味している言葉。この手法によって、日常生活で見られる形態や現象に数学的思考をめぐらし数式や図解入りでわかりやすく解説。洗濯はさみや折り紙、時計、電子体温計、さらに一七ヒトの足はなぜ二本か―などをテーマに興味深く説いている。ナカニシヤ出版、千六百円。